

◆点検シート(新基準)

評価基準	1 理念・目的	点検単位	発達教育学部 教育学科教育学専攻
点検・評価 年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 建学の精神、理念は、教育学専攻の「人材養成に関する目的」において、教育・研究・社会貢献の支柱として、明確に掲げられている。また、大学の特色や目指す姿が表現された、大学全体の教育目標や人材育成に関する目的に即して、教育学専攻の目的が、大学のウェブサイトや学習の手引にわかりやすく表現され、公表されている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

② 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 建学の精神や理念、教育・研究・社会貢献の目的・目標等については、適切な解説や経緯が付記されており、学内外関係者に広く周知されている。また、建学の精神や理念、教育・研究・社会貢献の目的や目標等の周知を促すための広報については、各種履修指導やウェブサイトへの掲載等で着実に実施されている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 「人材養成に関する目的」については、ウェブサイト上で閲覧することができなかった(ウェブサイト上に掲載されているとしても、閲覧のルートがわかりにくい)ため、ウェブサイトのレイアウトに課題がある。また、2016年度の学生アンケートでは「建学の精神・教育の理念を知っている学生割合」が21.7%であり、決して高い数値とは言えない。また「学科・専攻の教育目標や人材養成目標を知っている学生割合」が21.1%となっており、前回の2014年度の数値32.5%から大幅に下落していることも、大きな課題である。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。 「人材養成に関する目的」については、ウェブサイト上においても、明確に項目を立てて、閲覧しやすくなるよう、レイアウトに工夫を加えていく。また、各種履修指導における更なる周知の努力を徹底するとともに、閲覧数を増やすような、ウェブサイト上のレイアウトの工夫を施していく。

③ 大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた計画その他諸施策を設定しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字（10行以内）で現状説明を記入。

個別の視点での入力不要

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入（両方記入可）。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策（伸長方策）】…点検・評価（効果が上がっている事項）に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策（改善方策）】…点検・評価（改善すべき事項）に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果（内部評価結果レポート）

一般的なコメント（総評）

問題点が的確に認識されて、改善に向けて適切な対応がなされていると評価できます。

改善勧告コメント（点検単位からの意見を求めるもの）

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見

◆点検シート(新基準)

評価基準	4 教育課程・学習成果	点検単位	発達教育学部 教育学科教育学専攻
点検・評価 年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 本専攻の課程修了にあたって、学生が修得することが求められる学習成果を、「知識・理解」「汎用的技能」「思考・判断」「対話・相互理解」「社会性・自律性」「自立性」の6領域に分けて各々の領域で項目を挙げ、学生にわかりやすい適切な学位授与方針を設定している。また、その学位授与方針は、京都女子大学『発達教育学部教育学科学習の手引』、および大学ウェブページに公表されている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特記すべき事項なし
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特記すべき事項なし
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 「学位授与の方針」に掲げた能力を修得させるため、「京都女子大学人材養成・教育研究上の目的に関する規程」別表 3「教育課程編成・実施の方針」を定めている。「教育課程編成・実施の方針」には「学位授与の方針」との関連を意識した回生ごとの教育課程の編成内容を示している。平成 28(2016)年度には3つの方針、すなわち「人材養成に関する方針」「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」の公表の義務化をみすえて既存の方針の見直しをおこなった(平成 29 年 4 月 1 日改正)。「教育課程編成・実施の方針」については、大学ホームページや「学習の手引」においても明示している。加えて、科目区分、必修・選択、単位数等は、「単位履修要領」に加え、「学習の手引き」に、履修モデルを示すなどしてわかりやすく明示・公開している。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成している。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。
本専攻においては、教育課程編成・実施の方針に基づき、教育学に関する理論と各教科に関する学びを深めることができるよう、各科目の連携・関連を図り、体系的な教育課程を編成し実施している。教育学に関する理論については、教育原論、人権教育論、教職論、教育心理学Ⅰ、教育課程論、教育方法論、教育行政学などが相互の関連を持ちながら体系的に編成されている。各教科に関する学びについては、各教科の教育内容論・教育方法論・実践研究などの科目を開設している。さらにこれらの学修を総合的に活用するために、教育学入門演習Ⅰ・Ⅱ、教育学演習Ⅰ・Ⅱ、教育学研究Ⅰ～Ⅳが開設されている。また、教育学専攻の教育目標と、設置されている授業科目との関係については、学生に配付されている「学習の手引」の中で、カリキュラムマップや履修モデル等を通じて十分に説明されている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
現状説明にある通り、教育学に関する理論と各教科に関する内容と指導法が相即的に学べるようカリキュラム編成がなされており、学生の学修を促すことが可能になっている。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
さらに、大学の課程における理論的学びと京都女子大学附属小学校実習、母校(園)実習における実践的な学びとが融合・往還しながら行われることをめざし、2019年度入学生よりカリキュラム編成を見直した。このことで、教育学理論・教科の学び・実習における実践的学びがより有機的に結びつきながら促進していくことが期待される。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。
本専攻では、教育目標の達成に向け、アカデミック・スキルの習得を目的とした初年次教育に始まり、最終的に卒業論文とその発表につながるよう、1年次から4年次までの少人数演習科目においてグループワークによるアクティブラーニングを取り入れ、学生の主体的参加を促す教育方法の実施を行なっている。さらに、講義科目においてもアクティブラーニングの要素を取り入れ、実験・実習科目においては同一科目を複数コマ開講し、適正規模による最適な授業形態の採用に努めている。2017年度の授業アンケートの「授業への満足度」は80%以上であり、目的や学生に合わせた教育方法及び学習指導が行われている。学修ポートフォリオを活用し、GPAによる成績評価に基づく教職履修面談等を通じて、アドバイザーや演習担当教員による個々の学生の履修指導を行うとともに、履修科目登録の上限設定も行なっている。ただし、編入生に関しては上限を超える場合もあるため、編入生の履修条件や履修指導について検討中である。教育学専攻のシラバスについては全学統一の様式で、「到達目標」「授業の概要」「授業の計画」「評価方法」「授業時間外の学習について」「履修上の注意」「アクティブラーニングの区分」等が記述されている。シラバスは「大学ホームページ」で学内外に公表されており、授業内容・方法とシラバスとの整合性のチェックは、第三者(専攻内教務委員)による点検を行なっている。専攻内FD研修会においても、教科実践研究について、振り返りとしての演習の実際と課題のレポートをもとに意見交換等を行い、シラバスの充実が図られている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
特筆すべき事項なし
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
特筆すべき事項なし
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。
成績評価を適切に行うための措置としては、シラバスに成績評価の基準について「評価項目」「配分(%)」「評価の観点」の3点から明示する、成績評価に対する質問や疑義を受け付け対応する制度を設ける、GPAが一定基準を下回った場合には教員による面談の場を設ける、という3つの手だてを講じ、目指す姿の具現化を図ってきている。結果、例えば2016年度学生生活実態調査において質問項目「シラバス等で必要な学習情報が十分に提供されている」にかかる本専攻学生の数値は0.56であり本学12学科・専攻中で最も高い肯定的評価を得ていることから、本専攻においては成績評価を適切に行うための措置が適切かつ厳格に実施されているものと点検・評価することができる。
単位認定及び学位授与を適切に行うための措置としては、提出された成績をもとに教務課・教務委員会による確認・点検を経て単位認定を行う、学位授与(卒業認定)にかかる基準は「京都女子大学学位規程」「学習の手引」及び本学Webに明示する、学位授与(卒業認定)にかかる教授会審議の手順について規定した本学学則第52条に則り第一次判定・第二次判定という厳格な運用を行う、という3つの手だてを講じている。結果、2018年3月本専攻卒業生の累積GPA分布[教学IRデータ「平成26年入学・平成29年卒業者の履修状況(学科・専攻別)」]は2.0未満:1.9%[全学6.8%]、2.0～2.49:15.0%[27.4%]、2.5～2.99:54.2%[42.8%]、3.0以上:29.0%[23.0%]という比較的にバランスのとれた良好な状況であるとともに、第一次判定において対象者111名のうち追・再試験対象による卒業保留0名、登録時点における単位不足者2名、在学年数不足者2名を除く107名全員が学位授与(卒業認定)に至るという状況[平成29年度発達教育学部第一次卒業判定資料(総括表)]である(学位授与率・卒業認定率:96.4%)ことから、本専攻においては単位認定及び学位授与を適切に行うための措置が適切かつ厳格に実施されているものと点検・評価することができる。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
特筆すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。
学習成果を測定する評価指標として、本専攻では累積GPA、就職率、大学院進学者数、資格・免許取得者数、中退率等を重視している。本学科の2018年3月卒業者の数値は、2014年入学者数(107名)に対し、累積GPAの平均値は2.81、卒業率100%、進学者数7名である。資格取得者数は、小学校教諭107名、幼稚園教諭71名、司書1名、司書教諭14名、社会教育主事4名、情報処理士0名であり、概ね教育目標に沿った成果が上がっている。さらに、教員として就職する学生数、スクールボランティアへの参加者数、教育実習の評価、卒業論文の評価などを、学修成果を測定する指標として効果的に用いることができないかを検討中である。なお、2017年度より、ジェネリックスキル測定テストや学修ポートフォリオ(京女ポータル)を導入しており、今後はこれらを活用した学習成果の把握・評価にも取り組む。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
ジェネリックスキル測定テストや学修ポートフォリオとカリキュラムマップを用いた成果の把握をおこなう。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字（10行以内）で現状説明を記入。
教育課程及びその内容、方法の適切性については、各種調査資料に基づき、専攻会議にて協議している。平成29年度後期授業アンケートにおける学生の授業満足度は4.2であり、大学平均と同等である。学生生活実態調査結果では、「授業評価などによる学生の意見が授業改善に反映されている」の数値は向上（2014年21.7%→2016年25.0%）しているが、「大学で学んだことが社会に出て役立つ実用的な専門知識や技術を身につけることに役立っているか」の数値は低下（2014年73.0%→2016年63.5%）しており、より実践的で教育の現実的状況を反映した教育課程を編成することが課題となった。そこで、科目の新設・削減、科目の名称変更・内容変更、特支免許科目の新設等を盛り込んだカリキュラム改革に取り組み、H31カリキュラムを確定した。その他、改善に結びつける取り組みとしては、全学のFD講演会、専攻内のFD研修会、学外のFD関連研修・交流会への個別参加等を通して行っている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入（両方記入可）。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
特筆すべき事項なし
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
特筆すべき事項なし
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策（伸長方策）】…点検・評価（効果が上がっている事項）に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策（改善方策）】…点検・評価（改善すべき事項）に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果（内部評価結果レポート）

一般的なコメント（総評）
目標が具体的に設定されており、達成のための施策が行われていることは評価できます。
改善勧告コメント（点検単位からの意見を求めるもの）

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見

◆点検シート(新基準)

評価基準	5 学生の受け入れ	点検単位	発達教育学部 教育学科教育学専攻
点検・評価 年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 「京都女子大学人材養成・教育研究上の目的に関する規程」別表4「入学受入れの方針」において、求める学生像や修得しておくべき知識等を明示し、その内容は大学ウェブサイトや募集要項で広く社会に公表している。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。
本学科の学生募集および入学選抜については、学部教授会にて審議・承認を得るという手続きをとっている。学生募集においては、募集人数に対して十分な競争的環境を保つ受験者数を確保している。入学選抜は、指定校推薦入試、公募制推薦入試、一般選抜、社会人特別選抜、AO入試、一般編入学試験、推薦編入学試験があり、いずれも学科の定めた入試科目や方法に従い、受け入れ方針に基づいて、公正かつ適切に実施されている。AO入試は本学科では初の実施であったが、募集人数4名に対して14名の受験者を得て、小論文・グループディスカッション・面接によって多面的に評価した。本学科の求める入学を選抜することができたかどうか、今後検証していく。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
初めて実施したAO入試については、点数配分、選抜方法等について、本入試の意図である意欲、目的意識、秀でた資質・能力などを公平に評価する基準設定の難しさがあり、学校間格差の是正も課題が残った。次年度に向けて本専攻が特に求める課題の把握力や文章表現力、対人関係力を見取ることが出来るように、点数配分や当日試験の筆記の課題内容と面接内容を結びつけるなどの改善に取り組む。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき、適正に管理しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字（10行以内）で現状説明を記入。 ※個別の視点での記入は不要です。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入（両方記入可）。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策（伸長方策）】…点検・評価（効果が上がっている事項）に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策（改善方策）】…点検・評価（改善すべき事項）に関連させ、今後の改善方策を記入。

④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字（10行以内）で現状説明を記入。 学生の受け入れ（学生募集・入学者選抜）の適切性については、全学の入試本部委員会で定期的に検討されており、検討結果については適宜、教授会で報告されるとともに、必要に応じて審議している。また、入試の実際的な制度や運用については発達教育学部より選出された教員1名が全学の入試制度委員会に出席し、本学部ならびに各学科・専攻の個別的観点から学生募集および入学者選抜の在り方について協議し、全学的なレベルでの調整に貢献している。 入学志願者数については、教員養成としての定員超過率を超えないよう各入試種別で調整しており、教授会などでの審議・報告において注意している。一方で、より意欲的で教職にふさわしい人材を確保するため学部、学科、そして専攻の各レベルで様々な広報活動を行っており、本学の入学センターや経営企画・広報室などの部署に積極的に働きかけている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入（両方記入可）。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特記すべき事項なし
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特記すべき事項なし
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策（伸長方策）】…点検・評価（効果が上がっている事項）に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策（改善方策）】…点検・評価（改善すべき事項）に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果（内部評価結果レポート）

一般的なコメント（総評） 問題点が的確に認識されて、改善に向けて適切な対応がなされていると評価できます。
改善勧告コメント（点検単位からの意見を求めるもの）

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見

◆点検シート(新基準)

評価基準	6 教員・教員組織	点検単位	発達教育学部 教育学科教育学専攻
点検・評価 年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

本専攻は、発達教育学部において、小学校及び幼稚園の教員養成の重責を担っている。これらの責務を全うするために、京都女子大学の定める「大学の求める教員像および教員組織の編制方針」を踏まえてカリキュラムポリシーを作成し、教育の本質や歴史などを学習する教育学、学校の運営や評価、各教科等の教科教育学に基づく学習内容及び学習指導法等、多様な教育活動の領域の指導が可能な教員を採用し、組織化を図っている。また、現在求められている特別支援教育の担当教員の採用については、平成31年度から専門的な知見を有する教員が加わることとなっている。このような教員組織の編制方針を具体化するものとして、保育内容や教科教育の指導内容、学習指導案作成と模擬授業などを含む指導方法、教育現場と連携した教育実習、社会でのボランティア活動など、理論的な面においても、また実際の教育の実践についても学べることが履修要項にも明記されている。各教員は、専攻会議や委員会に所属し、各自の立場から教員、教育関係、公務員等の就職及び進路に合わせたきめ細やかな指導を行っている。その成果は、例年、全国的に見ても教員採用の高い合格率を誇っていることに表れている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

カリキュラムポリシーを作成し、理論的な面においても、また実際の教育実践についても学べるように、教育学、学校運営・教科教育、多様な教育活動の領域にわたる教員を採用し、組織化を図っている。また、教育学科はもとより、児童学科、さらには大学全体における教員養成課程を具体的に推進するために、教育の本質や歴史などを学習する教育学、学校の運営や評価、各教科等の教科教育学に基づく学習内容及び学習指導法等、多様な教育活動の領域の指導が可能な教員を採用し、組織化を図っている。さらに、現在求められている特別支援に関する教育を担当する教員について、平成31年度からの採用が決定している。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

本専攻は、発達教育学部において、小学校及び幼稚園の教員養成の重責を担っている。これらの責務を全うするために、カリキュラムポリシーを作成し、教育の本質や歴史などを学習する教育学、学校の運営や評価、各教科等の教科教育学に基づく学習内容及び学習指導法等、多様な教育活動の領域の指導が可能な教員を採用し、組織化を図っている。また、現在求められている特別支援教育の担当教員の採用については、平成31年度から専門的な知見を有する教員が加わることとなっている。このような教員組織の編制方針を具体化するものとして、保育内容や教科教育の指導内容、学習指導案作成と模擬授業などを含む指導方法、教育現場と連携した教育実習、社会でのボランティア活動など、理論的な面においても、また実際の教育の実践についても学べることが履修要項にも明記されている。各教員は、専攻会議や委員会に所属し、各自の立場から教員、教育関係、公務員等の就職及び進路に合わせたきめ細やかな指導を行っている。その成果は、例年、全国的に見ても教員採用の高い合格率を誇っていることに表れている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特別支援教育の担当者の採用を予定するなど、従来以上に幼稚園や小学校教員としての資質・能力を高度に育成するための教員組織の充実が図られている。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

③ 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 教員の募集・採用・昇格に関しては、「京都女子大学教員資格審査規程」および「内規」に基準が明文化されており、本専攻において、これらに則って教員人事の審査がなされている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 本学部においては、教員の募集・採用・昇格に関して「京都女子大学教員資格審査規程」および「内規」に則って適切かつ透明な手続きにより、教員人事の審査がなされていると評価できる。また、学部内の各学科・専攻の独自性に配慮した「業績評価基準」を策定・明文化すべく検討作業を行う方向の合意がなされている。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

④ 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 本専攻では、全学および専攻独自で実施されるFD研修への参加を奨励しており、他学科他専攻に対しても教授会でFD研修の実施を報告し積極的に参加を促している。専攻内部のFD活動としては、前・後期の講義終了後に年間二回の集中的活動を実施している。「学生アンケートによる優秀授業賞」受賞者の授業実践をFD研修テーマとして、報告を受けると共に、授業の工夫、成果などについての話し合いを行なっている。また、特別テーマとして、「特別支援教育に関する講習会」、「新学習指導要領変更の注意点についての研修会」を実施した。後期講義終了後の年度末の時期には、1回生の必修科目「教育学入門演習」および2回生の必修科目「教育学演習」の担当者を軸として、演習授業の授業内容、成果の共有と課題の話し合いを実施するとともに、全授業に関してシラバスの記載内容に関する点検について話し合いを行なっている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 教員の資質向上を図るFD活動を実施してきた中で、2016年度以来複数の優秀授業賞受賞者を出している。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 研修成果をいかに実効的に実践化するかが課題である。 研修成果の実効的な実践化に向けた具体的な改善方策として、「学生アンケートによる優秀授業賞」受賞者の授業実践や「新学習指導要領変更の注意点」についての研修の成果を踏まえ、シラバスの改善を行う。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。
本専攻では、毎年実施している自己点検・評価のほか、カリキュラム検討等に合わせて教員組織の適切性について、点検・評価を行っている。その結果をもとに、必要に応じて、教授会で採用・昇任等の人事案を検討している。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
特記すべき事項なし
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
特記すべき事項なし
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
特記すべき事項なし
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。
特記すべき事項なし

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評)
問題点が的確に認識されて、改善に向けて適切な対応がなされていると評価できます。ただ、「研修成果の実効的な実践化」については、もう少し「具体的な改善方策」を検討してください。
改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見
研修成果の実効的な実践化に向けた具体的な改善方策として、「学生アンケートによる優秀授業賞」受賞者の授業実践や「新学習指導要領変更の注意点」についての研修の成果を踏まえ、シラバスの改善を行う。